

世界最初の自転車「ドライジーネ」(1817年)



17世紀頃から玩具として使われていた2つの車輪の付いた乗り物にハンドルを付けて操縦性を持たせたものを1817年に考案したのがドイツ人のドライスです。1818年にドイツとフランスで特許を取り、自転車の発明者とされています。世界で最初の自転車は木製でペダルはなく、地面を足で蹴って走るものでしたが、約50キロの道のりを実際に走ってみたところ、当時の交通機関の中心であった馬車の所要時間の4分の1、時速約13キロの速さで走ることができました。この結果に自信を持ったドライスは自ら「ドライジーネ」と名づけて「馬の世話の必要もなく、歩くよりも快適で速く、誰でも利用できる」と宣伝して各地を実演して回りました。やがてイギリスやフランスでも生産が始まり、自転車教習所が設立されたり、電報配達業務に自転車が使われたりするようになりました。

しかし、冬の寒さと足で蹴って走るため靴底の破損が大きく自転車の使用は直ぐに廃止されてしまいました。また、イギリスでは自転車競技は危険であるということで競技場が廃止され、イタリアの警察では自転車は「交通に妨害と危険をもたらす」として市中での乗り回しを禁じてしまったのです。

こうして人々が自転車を目にする機会が少なくなり生産が減少していったため、ドライスは再び自転車を持って各地を実演して回りましたが、どこでも変人扱いでもう相手にしてくれませんでした。1851年に没したとき、彼の遺品は自転車などほんのわずかなものだけでした。不遇の晩年であったドライスが自転車発明者としての地位を得て、記念碑が建てられまでに没後40年かかりました。



カール・フォン・ドライス (1785年～1851年)
ドイツ人 男爵の称号をもっていた



「ドライジーネ」は木製でハンドルはあったがペダルがなく、足で蹴って走った



1818年4月5日のドイツ・ルクセンブルグ公園にてドライジーネの実演を行って自転車の便利性を宣伝した

自転車文化センター 谷田貝一男